

つながる力

《No.8》



2月13日、辺野古土砂全協が行った沖縄防衛局への要請行動。沖縄防衛局次長から外来種対策について「洗う以外にもいろいろな方法があるが、言えない」との言葉も飛び出しました。発言しているのは大津共同代表。系数・伊波両参議院議員にも同席していただきました。

—目次—

- 《全協要請行動》沖縄防衛局への申し入れ行動報告/北上田毅・・・2～3 ページ
- 《熊本》熊本県知事へのお願いと質問書提出/生駒研二・・・・・・・・・・4 ページ
- 《長崎》湯浅氏の学習会で理解深め、県交渉に/歌野礼・・・・・・・・・・5 ページ
- 《本部・南大隅》やむにやまれぬ思いで立候補/阿部悦子 大坪満寿子・・・6 ページ
- 《沖縄からの便り・その4》県と国の闘いはさらに熾烈に/浦島悦子・・・7 ページ
- インフォメーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8 ページ

※写真提供・・・北上田毅・生駒研二・歌野礼・阿部悦子・大坪満寿子

特定外来生物侵入防止策も明らかにしないまま 土砂採取・運搬費の執行は認められない

沖縄平和市民連絡会・当会顧問 北上田 毅

■今回の申し入れの趣旨

我々が昨年11月1日に行った政府交渉やその後の国会審議で、今後3年間で「埋立土砂の採取・運搬」などに関わる予算として816億円、そのうち2016年度予算として56億円が計上されていることが明らかになった。さらに、国会審議で政府は、「特定外来生物侵入防止策については、埋立土砂の供給業者に所要の調査等を義務づける」「環境等監視委員会の指導助言を受けた後、防衛局が適切な対応をとる」などと答弁した。

そのため、土砂全協は、このままでは、特定外来生物の侵入防止対策を明らかにしないまま予算が執行され、業者と土砂採取・運搬の契約が締結される恐れがあるとして、2月13日、沖縄防衛局への申入れを行った。

阿部悦子共同代表が突然の交通事故で参加できなくなったのは残念だが、大津幸夫共同代表、八記久美子事務局次長をはじめ、愛媛、静岡、そして地元本部や名護の島ぐるみ会議のメンバーら計15名が参加した。糸数慶子、伊波洋一両参議院議員らも立ち会っていただいた。

■「留意事項は遵守する」と沖縄防衛局次長

まず、計上した予算の算出根拠、特定外来生物侵入防止策を明らかにせよと追求したが、防衛局遠藤次長は、「公平な入札に支障がある」として説明を拒否。さらに、「埋立承認願書に記載した土砂搬出地は、あくまでも予定地であって確定したものではない。今後、業者と契約をして始めて場所が決まる」、「外来生物侵入防止対策についても、それから」と開き直った。

これに対して我々は、「埋立承認の際の留意事項には、『埋立に用いる土砂等の採取場所及び採取量を変更する場合は知事の承認を受けること』とある。承認願書に記載した場所が予定地にすぎないというのなら、業者と契約をする前に、当然、知事の承認を得なければならない」と追求した。遠藤次長は、慌てて、「もちろん、留意事項は遵守します」と答えざるを得なかった。この知事の承認権は、今後の各地からの土砂搬出を止める大きな力になるだろう。

■さらなる追求を

大津共同代表が奄美大島から持ちこんだ



左…沖縄防衛局の次長ら。
下…交渉には、糸数慶子・伊波洋一両参議院議員をはじめ、連絡協議会のメンバー15人が参加しました。



岩ズリをテーブルに広げ、「洗浄すれば土砂が流れてしまう。どのような侵入防止策を取るのか」と迫った。遠藤次長は、「水で洗浄する以外にも他の技術的な方法もある。しかし、それを明らかにすると、やはり公平な入札に支障を来す」などと言ってまともに答えようとしなない。「他の技術的方法」などあり得ない。洗浄ができない以上、特定外来生物が見つかった地域からの土砂搬入は止めるほかないのだ。

業者任せの侵入防止策の危うさについては、沖縄県土砂条例に基づく那覇空港第2滑

走路埋立事業での奄美大島からの石材搬入の事例でも明らかになった。この日の申入れは1時間ほどで終えたが、さらに追求を強めていく必要があるだろう。

<参考>別表は、本年3月10日の福島瑞穂議員の資料要求に対する防衛省回答。辺野古新基地建設事業では平成28年度から3年間で1,599億円が見込まれており、そのうち816億円が埋立工事(埋立土砂の採取・運搬)として計上されている。

普天間代替施設建設事業に係る平成28年度予算の内訳

(単位:百万円)

項目	平成28年度予算 (契約ベース)	28年度単歳	国庫債務負担行為限度額	
			28年度歳出分	29年度以降
代替施設建設				
環境影響評価関連	2,423	—	0	2,423
設計費等	545	—	0	545
仮設工事	15,693	7,505	632	7,556
護岸工事	52,583	—	0	52,583
埋立工事	81,632	—	5,561	76,071
付帯工事	7,064	—	0	7,064
計	159,939	7,505	6,193	146,240

注 計数は、四捨五入によっているため、符合しないことがある。

新刊紹介 ≪沖縄の環境・平和・自治・人権≫



日本環境会議沖縄大会実行委員会 編
七つ森書館 2017.3.1 刊 2500円+税

2016年10月21～23日、沖縄で「環境・平和・自治・人権～沖縄から未来を拓く」をテーマに「日本環境会議沖縄大会」が開催され、400名以上が参加しました。

法律・行政・報道・地方自治・地方経済・歴史など様々な分野の研究者・専門家や、基地・環境問題などに取り組むNGOの皆さんが一同に会し、沖縄のおかれる環境・平和・自治・人権の現実を共有し、未来を切り拓く議論を行いました。辺野古土砂全協も招かれ、本土からの土砂搬出問題を報告しました。

本書は、その取り組みの貴重な記録です。必見・必読の一冊です。ぜひ、お求めになってください。

湯浅氏の学習会で理解深め、県交渉に

五島列島自然と文化の会 歌野 礼

■一步踏み出しました

土砂問題に関する取り組みが遅れている長崎県では、2016年名護集会で知り合った森本さん親子の来崎にきっかけをいただき、顧問の湯浅さんによる学習会、県交渉、搬出予定地の視察などを通じて一步を踏み出しました。

まず長崎市内での学習会では「生物多様性と外来種問題から見た辺野古・大浦湾埋め立て問題—搬出地候補を抱える長崎県民が知っておくべきこと」と題し、搬出地・五島市杵島近辺の海域の希少性について理解を深め、地元紙に小さいながら写真入りで掲載されました。

■要請があれば条例の範囲内で協力すると

県との交渉は、土木部より採石担当を含む2名、環境部より生物多様性保全班など2名、坂本県議(長崎県平和運動センター事務局長)の立会を得て、「長崎県生物多様性保全戦略2014-2020」を盾に、沖縄県の土砂搬入規制条例に基づいて協力要請があった場合に、長崎県としては沖縄の条例の範囲内でこれに協力する体制をとる(行政の一般論として、とらねばならない)、という回答を得ました。その他の回答は想定の範囲内の逃げ口上だったのでここでは割愛します。

■今後求めていくことは

今後、県に対し、

- ・土砂搬出地は環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い海域」に指定されており、大量の土砂搬出による悪影響を最小限にとどめるための、調査・指導をすること。
- ・生物多様性保全の観点から、大量の物質を移動しない。特に気候帯をまたぐような大規模移動をしないという原則を、条例等のどこかに入れること。
- ・県として内外の物質の出入りを把握し、情報を開示すること。

などを引き続き求めていく予定です。

■島民いわく「ここから土砂を運ぶと」

杵島現地では、石材と思われる大きな石と共に、岩ズリとみられる土砂が山積みになっているのが観察されました。また、設備の外観を見

る限り、石材の洗浄も不可能であると思われます。これは前日見た上五島の採石場(石材を細かく選別、ズリはほとんど出ない。洗浄・沈殿設備を持ち環境への土壌流出の対策をしている)と比較すると明らかに違います。また島民によれば、すでに「辺野古にここから土砂を運ぶ」ということが自治会の役員に伝わっており、真興産業の長崎県への説明と矛盾します。しかも社長は自衛隊出身で現在も自衛隊OBを多く雇用しているとのことで、この問題に関する防衛省の契約や予算執行の在り方について、全国協議会でも注視する必要があると考えます。

■協力を求めることが搬出を遅らせることに

搬出各地で県との交渉を行い、沖縄県から土砂搬入規制条例に基づく要請があったときに、各県がそれに協力することをもとめていくことは、条例の効力を補強し、土砂搬出阻止を遅らせる実効性があります。「沖縄では法が捻じ曲げられているが、他県の交渉に来ると『法に基づいて』と繰り返される」と辺野古現場ならではのコメントがありましたが、土砂問題の活動では、地方行政に法に基づいて法を守らせることによって、この環境破壊と税金の無駄遣いによる住民の権利侵害と戦争加担を阻止したいと、改めて思いました。



長崎県交渉の様子(写真上)と、
杵島土砂搬出予定地

沖縄からの便り
《連載 No.4》
いちやりば
ちよーでー

《闘いはさらに熾烈に》

違法な工事進める政府。工事差し止め訴訟 や承認撤回に向けて動き始めた沖縄県。

へり基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子



ヒロジさんが登壇すると「ヒロジコール」が沸き起こった。



「埋め立て承認の撤回をやる」と表明する翁長知事



キャンプシュワブの前で開かれた県民集会には3500人余が参加した



大型ボーリング船「ポセイドン」

3月25日、米軍キャンプ・シュワブゲート前で開催された「違法な埋立工事の即時中止・辺野古新基地建設断念を求める県民集会」（主催：辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議）。朝からの雨にもかかわらず続々と集まる人々（3500人余が参加）からどよめきが起こった。5カ月以上にわたる不当勾留からようやく1週間前に保釈された沖縄平和運動センター議長・山城博治さんが姿を見せたのだ。それを祝福するかのようにつしかな雨は止み、集会の前に登壇した山城さんは「帰ってこれることができました。仲間たち、世界中からの激励で頑張ることができた」とお礼を述べ、「どんな権力も私たち県民の誇りを折ることはできない。これからの裁判は私たち被告だけでなく、県民全体、全国の仲間たちすべてにかけられた攻撃だ。抑圧される者、差別と犠牲を強いられる者が頑張りを続ける姿を発信しよう！」と訴えた。少し痩せてはいたが、張りのある声の力強さは変わらない。涙を流して喜ぶ人々、「ヒロジコール」があちこちで沸き起こった。

集会本番には翁長雄志知事も登壇、新基地建設阻止に向けた不退転の決意を改めて示し、最後に、「必ず（埋め立て承認）撤回をやる」と明言、万雷の拍手を浴びた。

昨年12月の最高裁不当判決を根拠に沖縄防衛局は新基地建設に向けた工事を再開し、国内最大級の特種掘削船（4015トン）や大型クレーン船で海底ボーリング、汚濁防止膜の設置、それを固定する228個ものコンクリートブロックの投下を強行し、大浦湾の貴重な海洋生態系を破壊している。仲井眞前知事の岩礁破碎許可は3月末で期限切れとなり、国の工事が違法となった4月1日は、ゲート前座り込み1000日の節目の日でもあった。この日の1000日集会にも参加した山城さんは、弁護士同行でしか動けないもどかしさを抱えつつも「生き返ったような思いです」と笑顔を見せ、自ら作詞した「沖縄今こそ立ち上がろう」など3曲を次々に参加者と一緒に歌った。

沖縄県の中止要請を無視して、4月以降も安倍政権は海でも陸でも違法工事を遮二無二強行し、4月中には埋め立ての前段となる護岸工事に着手しようとしている。沖縄県は現場に監視船を出して違法工事をチェック、沖縄防衛局への行政指導を行うなど、工事差し止め訴訟や承認撤回に向けて動き始めたが、政府はあくまで強行する姿勢だ。埋立土砂採取・搬出を許さない全国の仲間との連携が今後ますます重要になってくる。

インフォメーション

■辺野古土砂全協 第4回総会in北九州 ご案内 5月27日(土)・5月28日(日)・北九州市小倉

下記要領で、全国連絡協議会の第4回総会を開催いたします。全国の皆さん、是非ご参加ください。申し込みにつきましては、同封の用紙をご利用ください。

○ところ…北九州市立商工貿易会館（北小倉北区古船場1-35・☎093-541-2184）

○ホテル…小倉リーセントホテル（小倉北区大門1-1-17・☎093-581-5673）

○日 程

≪5月27日(土)≫総会・学習交流集会・交流会

13:00~14:40 辺野古土砂全協第4回総会（会場：601会議室）

15:00~18:00 学習交流集会（会場：多目的ホール）

①基調講演「辺野古・高江の基地建設とやんばるの森の世界自然遺産登録は両立するのか？」
講師 桜井国俊 先生（沖縄大学名誉教授）

②講演一 2「生物多様性から見た辺野古土砂問題」 講師 湯浅一郎（辺野古土砂全協顧問）

③特別報告「辺野古新基地建設と港湾労働者の立場」糸谷欽一郎（全国港湾労働組合連合会委員長）

④質疑応答&桜井国俊さんと湯浅一郎さんのトーク

18:30~ 交流会（会場：菅原会館 商工貿易会館隣）

≪5月28日(日)≫土砂搬出予定地（中には入れません）と曾根干潟視察

08:00 にホテルを出発。土砂搬出予定地と曾根干潟を視察し、13:00 に小倉駅で解散

案内 八記久美子（北九州連絡協議会）・北九州野鳥の会・曾根干潟を守る会（予定）

○諸費用

参加費：1000円 交流会費：3500円 宿泊費：7000円 視察費：1500円

※参加ご希望の方は、同封の参加申込書各欄に○印を付けて5月18日必着で、

受付担当 八記久美子まで、E-mail、FAX または郵送でお申し込み下さい。



■編集後記

◎ 2月7日に自宅近くの横断歩道上で交通事故に遇いました。オデコの怪我、目の回りの骨折、足も骨折するという状態で、いつも元気だった私が、3か月間の入院生活を送っています。そのために、予定していた沖縄・辺野古への3回のツアーを取り止めることになり、申し訳なく悔しい日々を過ごしました。にも関わらず、皆さまからご心配とお励ましをいただき、有り難く感謝いたします。退院も間近となり、5月末の北九州での総会には復帰して、みなさんに会えることを楽しみにいたしています。辺野古に故郷の土砂を送らせないために力を合わせましょう！（阿部）

◎ 阿部さんの交通事故には大変驚いた。聞きつけた会員の方から、「狙われたのでは？」の問い合わせも。かくいう小生も1月中旬から腰痛に悩ませられ、日々体調と相談しながらの3か月余り。しかし時は待ってくれない。年度末。決算に助成金収支報告も、やるしかない！（松本）

◎ 北九州では、総会の準備が進んでいます。会場・ホテル・バス・当日体制などの準備はすでに終わりました。今は、学習交流集会の300人の会場をいっぱいにし、総会の成功と共に、北九州の運動の飛躍を作りたいと、世話人が力を合わせて頑張っています。全国からも是非たくさんお越しください。みんなで待ちよるけ、きちやりーね。（八記）

≪辺野古土砂搬出反対全国協ニュース≫

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫（自然と文化を守る奄美会議）

阿部悦子（環瀬戸内海会議） hibi_etsuko@yahoo.co.jp

編 集…松本 宣崇（環瀬戸内海会議） nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子（門司の環境を考える会） kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL090-3783-8332